

記入日（西暦）2025 年 6 月 25 日

医療薬学学術小委員会（新規）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2025 年度医療薬学学術第 4 小委員会
研究テーマ	ヘルスリテラシー向上のための教育の現状と今後の展望

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	タナカ ミズキ
	氏 名	田中 みずき
	所属施設の名称 (正式名称)	株式会社 ファーマスティ みどり薬局

構成委員	氏 名	所 属
	三宅 更紗	みどり薬局
	木内 翔太	みどり薬局
	成井 浩二	東京薬科大学 准教授
	坂口 眞弓	みどり薬局/東京薬科大学 客員教授
	柴田 淑子	りぼん薬局
	柳 直樹	ヒロ薬局
	押切 康子	みよの台薬局品川二葉店

3. 研究の目的

1. 研究目的の概要

近年、インターネットや SNS の普及により、私たちは日々膨大な量の情報に接している。特に健康に関する情報は、専門的な医療機関からの発信だけでなく、個人の体験談や匿名の意見まで、多様な形式で流通している。このような情報環境の中では、信頼できる情報を見極め、適切に活用する力が個人に強く求められるようになってきている。こうした背景のもと注目されているのが、「ヘルスリテラシー」という概念である。ヘルスリテラシーとは「健康に関する情報を入手し、理解し、評価し、活用するための個人の知識、意欲、および能力」(WHO, 2013)を指す。中でも特に医療情報の活用に関して、市民のスキル不足が指摘されており、誤情報による不適切な健康行動や治療選択が社会的課題となっている。¹

薬剤師は、医薬品の専門家として国民の健康的な生活に寄与する責務を担う、医療提供体制における重要な存在である。医師や看護師と異なり、薬剤師は医療機関内にとどまらず、地域の薬局やドラッグストアなど、市民にとって最も身近な医療専門職の一つとして位置づけられている。そのため、薬剤師は日常的な健康相談の窓口となる機会も多く、市民との接点を通じてヘルスリテラシー向上に貢献しうる立場にあると考えられる。実際に先行研究では、薬剤師が成人や特定の集団を対象としてリテラシー教育を実施した結果、医薬品の適正使用が促進され、健康行動の改善に寄与したことが報告されている^{2,3}。

しかしながら、薬剤師が一般市民に対して実施するヘルスリテラシー教育の具体的な内容や方法論については、現時点で体系的に整理されておらず、明らかでない部分が多い。従来のヘルスリテラシー研究の多くは、市民側の知識や行動変容に注目しており、「情報の受け手」を対象としたアプローチが主流であった。一方で、ヘルスリテラシーの形成や向上は、受け手側の資質だけでなく、提供者側、すなわち情報をどのように伝えるか、どのような手段・媒体を用いるか、といった側面にも大きく依存する。特に薬剤師は、その専門性と市民との接点の多さから、情報発信者としての役割が今後ますます期待される存在である。

そこで本研究では、①薬剤師によるヘルスリテラシー教育の実態を、「人」（薬剤師の属性、教育活動への参加経路、教育資材の種類、実施時間、実施時期、対象者など）と「もの」（インターネット上で公開されている教育ツールや教材などの資材評価）の両面から明らかにする、②「人」と「もの」の両面からの調査を通じて、課題を明確にするとともに今後の効果的な教育プログラムの設計（わかりやすく実行に移しやすいヘルスリテラシー教育資材の作成・利活用や開催時期、時間、頻度、内容に関するカルキュラム）や薬剤師によるヘルスリテラシー教育体制構築（薬剤師のヘルスリテラシー教育活動におけるノウハウの共有、新規の情報発信の機会）に資する知見を得ることを目指す。

4. 活動計画

(1) 初年度（2025 年度）

- 薬剤師を対象としたヘルスリテラシー教育活動に関するアンケート調査を設計・実施する。
(対象: 学校薬剤師、地域薬剤師会所属薬剤師など)
- インターネット上で公開されている教育資材・教材を収集する。また、必要に応じて薬剤師会・教育団体・学校関係者に対して教材提供の協力依頼を行う。
- ツールを用いた資材の評価枠組みを準備・調整する。

(2) 2年度目（2026 年度）

- 収集した教材・ツールについて PEMAT を用いて評価を行い、理解しやすさ、行動喚起性等の観点から質的・量的分析を実施する。
- 1 年目のアンケート調査結果と資材評価を統合的に検討し、薬剤師による教育活動における課題や不足点を抽出する。
- 抽出された課題について重要度・実現可能性をもとに優先順位を整理し、改善提案の方向性（対象、手法、教材、体制など）を明確化する。必要に応じて、インタビュー調査やワークショップ形式による関係者との意見交換を実施。

(3) 3年度目（2027 年度）

- 抽出した知見をもとに、薬剤師によるヘルスリテラシー教育支援のためのモデル（教育プログラ

ムや体制整備案など）を試案として構築する。

- 地域薬局や薬剤師会、学校等の協力を得て、パイロット的な実践を限定的に実施し、その反応・効果・実行可能性について予備的評価を行う。

5. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）

特になし